



にこにこ通信第168号

2009/3/20

〒933-0804 高岡市問屋町 40 (有) 沖商店

沖 昌弘

TEL 0766-25-2525(にっこりにこにこ)

E-mail

FAX 0766-26-5500(ふるへごーごー)

oki2525@oki-shouten.com

謹啓 毎度格別のご最眞に預り厚くお礼申し上げます。

本通信は、皆様のご意見を頂いて私の人生修行の糧といたしたく、ひと月に一度お届けしています。どうぞ、忌憚の無いご意見をお寄せくださいますようお願い申し上げます。 謹白。

一 死んときや死んがいぜ

「死んときや死んがいぜ」これは、私の父・幸林が私に残してくれた訓詞のひとつです。父は私に色んな事を教えてくれました。今、未曾有の経済不況に接し、この訓詞が思い出されました。『人間、死ぬ時にはどんな手当てをしても死ぬ。また、死なない(死ねない)時には、如何にしても(されても)死なない(死ねない)。なのに死にはしないかと憂い、心配するのは全く馬鹿げている。そして死ぬ気になったら何でも出来る。もし大きな困難に直面した時はあれこれ悩まず、生死・成否は神仏に任せて「死んときや死ねんだ」と開き直って一旦その困難からの心の束縛を解き、眼前の事実の善処に全神経・全能力を注ぐべきだ』と、心の持ち方、覚悟の仕方を教えてくれました。その効力の一例を紹介します。今日の医療技術の発展はめざましく不治の病と言われた癌も、早期発見す

ると、ほとんど完治に近い回復が見られます。私の住んでおります町内にも癌を患い、手術後、5年〜10年通院しながらも元気に現役で活躍しておられる方が大勢いらつしやいます。この中のひとりがGさんです。Gさんは大腸を40センチも切ったと聞きました。一昔前ならほとんど死を免れることはなかったでしょう。実際、彼は退院後、傍目にも気の毒なくらいしよげ切っていました。そのあまりのしよげぶりに見るに見かね私は声をかけました。「Gさん、あなたの気持ち分らんでもなけれど、そんな思い詰めてしよげとつても何にもならんよ。しよげりや治っちがなら大いにしよげんなんけど(しよげれば治ると言うのなら大いにしよげなければなりません)が、どれだしよげても尚更悪なるだけやぜ。『死んときや死んがいぜ』。開き直って、度胸決めて、ちよっこでもたのしいらといきやどうやいねん」と、それこそまさに死の恐怖と向かい合っている者にはちよつと強く当たる物言いだと思いましたが、タイミンが良かったのか、本人の心の切り替えが良かったのか、彼はその後、見違えるほど元気を取り戻し、5年経った今、いろんな団体の世話をして活躍されています。

「富山方言番付」
東の前頭「あごてんくう」
意味「裏切り」「ドタキャン」される。あてにしていた者・安心して任せていた者に仕事放棄されひどい目を見る。
「お前、あんなもん相手に仕事しとつたら、そのうちあごてんくうぞ」
「お前、あの様な者を相手に仕事をしていたら、いつかは、急に仕事放棄されてひどい目にあうぞ」
「あごてんくわす」
意味「安心させてひどい目にあわす」
「あいつ、おわをだらにして、いつかあごてんくわせてやらんなん」
「あいつ、私を馬鹿にして、いつか裏切つてひどい目にあわせてやるぞ」
私の息子は「あご」と言うものの「てんぷら」のことかと言いました。
私見ですが「あごてん」＝「顎転」。即ち、あごひじ(顎肘)楽な恰好でリラックスしている)している人の腕を、傍から振り払うと同じ程の大きなショック。それを受けるのをくう、与えるのをくわすと言うことだと思えます。
古代ローマ帝国のシーザーはブルタスに、織田信長は明智光秀に「あごてん」をくわされました。
紙面の関係上、西の前頭「あだくそ」は次号に廻します。